

総合評価

受診施設名	学校法人 瓜生山学園 認可保育園 こども芸術大学	施設 種別	保育所 (旧体系:)
評価機関名	特定非営利活動法人とらい・あんぐる		

令和 6年 2月 26日

総 評	<p>認可保育園こども芸術大学は、京都北白川の瓜生山の麓、京都芸術大学構内にある保育園で、2019年4月に1歳児から5歳児までを対象とした「認可保育園 こども芸術大学」として開園されました。自然と芸術を身近に感じられる恵まれた環境の中に設置していることを特色としています。生命への畏敬を感じ、大学内の様々な出会いや多くの分野の文化・芸術を感じることができる環境を活かした保育を実践しています。「こどもこそ未来」をスローガンに、「瓜生山で共に暮らし 共に育ちあい 心を育む」ことを保育理念としています。また保育方針として「自然や芸術を通して様々なことに感動し、自分の気持ちを素直に表現する力を育むこと」などを掲げています。</p> <p>設立してから5年目となり、園長および職員の努力のもと、組織としてのガバナンスを丁寧に構築してきており、中・長期事業計画、PDCAサイクルの浸透・定着など、経営として強固な基盤ができてきています。</p> <p>自然豊かな環境下で、子どもの主体性を尊重した保育は、魅力あるもので、職員にとっても働き甲斐があると思います。しかし、大学という大きな枠の中での運営であることから、様々なことが大学内で完結できるというメリットと地域への発信に意識が薄くなるデメリットがあることは否めません。卒園して地域に羽ばたいていく子どもたちにとっても、ぜひ地域との連携を意識し、交流していくことを期待します。</p> <p>園舎自体が「木」の素材の優しさを感じることができる、まさに芸術作品で、保育室の窓から見える景色は子どもたちが季節を感じることができる環境です。自然の山や木々の中で、子どもたちがやりたいこと、気づきを発見し、保育者の関わりや声掛けによって子どもたち一人ひとりがしたいことを存分に遊んで遊び込み、友だちとの関わりで自分の想いを伝えられ、相手の想いを理解することに繋がっているとうかがえます。</p> <p>子どもの一人ひとりの特性を理解し、ゆったりとした時間は、無理に何かをさせたり、制止させる言葉を使用しないようにすることで、自己肯定感も育っているとうかがえます。</p> <p>保育園にとって、保育士の専門性向上やスキルアップの取り組みはもちろん重要ですが、指導者、管理者、経営者の育成は今後の園の将来性に大きく関わる課題です。その面でも人材育成に積極的に取り組み、保育園を取り巻く環境の特色を活かし、さらに質の高い保育の発展を期待します。</p>
-----	---

<p>特に良かった点(※)</p>	<p>【保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。】通番8</p> <p>年、月、週ごとに年間計画、月案、週案を立案し、それぞれにPDCAの視点で定めたフォームに全職員が明文化し、一つの仕組みとして定着して浸透しています。連続性も確保しており、年間計画では方針になり、それを月案に具体化し、行動計画として保育を実践している点は高く評価できます。また、これらの案を個人の成果管理にも活用しています。</p> <p>【利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している】通番30</p> <p>保育園の特徴や保育内容について、パンフレット、ホームページなどで視覚的に紹介しています。特に特徴である環境「地域の道に面さず、瓜生山の斜面に立地」、「京都芸術大学の中に設置」について理解を促すため、保育園の見学会を年5回開催し、プレゼンテーションを実施しています。また、同法人である瓜生山学園の広報用Webマガジン「瓜生通信」に、保育園の様子を毎月掲載しています。</p> <p>【不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている】通番39</p> <p>「安全確保・危機管理マニュアル：不審者対応編」を整備し、職員に周知徹底しています。開園時より警備会社と契約し、玄関はオートロックを採用、2023年度には園内の防犯カメラを3台から7台に増やし事務室で常に確認しています。また、非常ボタンを事務室とホールに設置しています。不審者侵入時の対応方法について、下鴨警察署員の指導の下、通報方法や防犯用さすまた・催涙スプレーの使用方法など、実践的な園内研修を実施しています。</p> <p>【生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。】通番 47</p> <p>子どもたちの表情がいきいきとしており、保育理念と保育方針に基づいた保育内容が展開され、保育者との良好な信頼関係が築けています。恵まれた保育環境による子どもたちの成長だけではなく、保育者以外の、大学の教員や、実習生、インターシップの学生、栄養士・調理員、その他関係者の方々との関わりが全て子どもにプラスの影響を与えていることがうかがえます。保護者と共に構内の芸術作品に触れながら、山遊びができる環境で、専門の指導者や保育者とダイナミックな絵画などの作品を作ることができる保育園の強みを、さらに多くの方に知っていただくことを期待します。</p>
-------------------	---

<p>特に改善が 望まれる点(※)</p>	<p>【実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。】通番 20 毎年、大学と連携して 15 名程度の実習生を受け入れています。が、実習生の指導は担当者を決めて対応されているものの、職員の経験知をベースに、職員間の協力で実施しています。実習指導者としての知識や知見についてセミナーなどを活用して向上していくことも、人材育成の視点で重要であり、今後の取り組みを期待します。</p> <p>【地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。】通番 27 瓜生山学園が運営する保育所であるため、経営面や運営面においても学校法人に対する広義的な意識から、地域との交流や連携の取り組みで一部受動的な姿勢がうかがえます。地域を広義で捉え、大学周辺の地域、自治体などへの展開や、高齢者の方々とも交流ができれば、こども芸術大学の活動が、さらに広報できると考えます。</p> <p>【感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている】通番 37 「感染症予防・対応についてのマニュアル」を整備し、職員に周知徹底しています。保護者には、診察が必要な感染症について、「保育園のしおり」に掲載して周知しています。各保育室に嘔吐対応用バケツ・消毒液などのセットを準備し、イラスト付きの説明資料も作成していますが、定期的な実践研修が実施されてはいません。感染症発生時など、緊急時の安全確保については、ロールプレイなどの実践的な研修が効果的であり、定期的な研修開催が望まれます。</p> <p>【子どもに関する記録の管理体制が確立している】通番 45 個人情報保護について規程に基づき記録の管理を行い、保護者に個人情報の取扱いについて説明し同意を得ています。保育園設立 5 年目で、現在は子どもに関する記録は全て鍵のかかるロッカーに保管していますが、文書管理規程など記録の保管・保存・廃棄・情報の提供に関する規程の文書化ができていません。今後、同法人の大学の規程も参考にし、文書・記録の管理についてルール化が望まれます。</p>
---------------------------	---

※それぞれ内容を 3 点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	認可保育園 こども芸術大学
施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人とらい・あぐる
訪問調査日	令和 6年 1月 29日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a

[自由記述欄]
1) 「瓜生山で共に暮らし 共に育ちあい 心を育む」ことを保育理念とし、「自然や芸術を通して様々なことに感動し、自分の気持ちを素直に表現する力を育むこと」を保育方針に掲げている。この、保育理念や基本方針についてホームページやリーフレットはもちろん、全体計画やしおり等の配布物にも掲載していることを確認し、入園説明会やクラス懇談会等でわかりやすく説明し、職員はもちろん、保護者や対外的にも広く周知に努めている。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
		3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b	b

[自由記述欄]
2) 経営状態の把握・分析については、保育園の経営状況に関する判断材料を学校法人瓜生山学園に提供し、その法人課で総合的に実施している。毎年の決算や予算策定のほか、資産の減価償却等も法人課で把握・分析し、管理している。
3) 保育園のみに対する決算書を作成し、経営状況や収支の状況を把握するなど、法人本部と保育園の責任者として結果や課題を共有している。改善すべき課題がある場合、職員に関わる内容に落とし込んで職員会議等で伝えているが、職員の意見を聞いたり、職員同士の検討の場を設定したりするなど、課題解決のための組織的な取り組みについては十分ではない。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	a
		5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	a
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	a
		7	② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b	a

[自由記述欄]
4) 保育園単独の事業および収支に対する中・長期計画を策定している。5年の長期計画を中間期ごとに見直しながらか策定し、計画の乖離を小さくすることにも努めている。ビジョンおよび目的と対策を明記しており、職員の意見も吸い上げて反映している。
5) 中期計画をもとに年度ごとの「事務局重点課題」を作成し、さらに目標と計画を具体化した「事業計画書」を策定したうえで、単年度の目標を設定している。職員には年度当初の職員会議で保育園の「事務局重点課題」を共有し、それぞれのクラスの保育内容に反映するように具体的に提案している。園長と事務担当者が「事業計画書」の進捗管理を実施し、中間期評価も実施している。
6) 事業計画について、職員会議、園内研修等で職員の意見を聞き、話し合い、改善すべきことは合意のもと決定して実施している。また隔週で連絡会を開催し、各クラスの状況や課題を共有し相互理解に努めており、対策や施策ごとに、項目、担当者、対応方法まで具体化した計画書になっている。
7) 保護者全員に年間の行事予定を配布し、各行事の説明文書を事前配付している。保護者参加が必要な行事に関しては、文書で丁寧に説明し、参加を促している。毎月月末発行の「園だより」に次月の行事を掲載し、学園の広報Webマガジン「瓜生通信」に、毎月、子どもたちの様子を「瓜生山で子どもが笑う」というタイトルで活動紹介の記事を発信している。また、「園だより」掲載のQRコードから、見学会参加者等には参加案内メールに記載のURLから講読ができるよう配慮している。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	a
		9	② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	a

[自由記述欄]
8) 保育については、年、月、週ごとに年間計画、月案、週案を立案し、PDCAのサイクルを継続的に実施している。この取り組みは一つの仕組みとして定着しており、職員全員に浸透している。連続性も確保しており、年間計画では方針になり、それを月案に具体化し、行動計画として明文化している。また、これらの案をベースに個人の成果管理にも活用している。
9) 個々の自己評価に関しては、職員のキャリアや役職に応じた自己評価シートを作成し、個別に年間3回の園長との面談で取組むべき課題を明らかにしている。課題については職員間で共有化し、意見の話し合いにつなげるために、職員会議などで話し合いの場を意図的に設定している。また、必要な場合は学園の法人課、総務課、経理課、施設課等の関係部署にも速やかに報告し、共有している。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 管理者の責任とリーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	a
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	a
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b	a

[自由記述欄]

10)常にチームとして機能できるように、職員全員の職務(業務)分掌、組織図、個人別の役割分担表を作成している。有事の場合における役割や責任も明確にし、会議や掲示などで、全職員に周知し、「報告、連絡、相談(報連相)」ができるような信頼関係を構築している。

11)保育所として遵守しなければならない基本的な関連法令について、左京区の園長会議に出席し、法令に関する通達文書などを必要に応じて職員に共有化し、周知している。特に、個人情報や著作権に関すること等、職員会義での議題としてとりあげ周知に努めている。園長は、自ら研修や勉強会に参加し、資格取得など積極的に研鑽を重ね、園長業務に反映している。

12)年6回開催している園内研修で、各職員の保育の取り組みについて発表し、話し合いや相互アドバイスの機会を設け、保育に対する各自の振り返りや気づきを促し、普段の保育の延長線上にある事項についての学びの機会を提供している。また、前校長や前園長、外部講師等を招いて研修を行い、保育の質の向上を推進している。また、園長自ら、各クラスの月案、週案など職員が提出した文書を確認し、コメント付記や担任と意見交換している。

13)園長は、年度初めに職員の希望やキャリアをもとに職員配置を決定し、課題があるときは会議で取り上げ、トップダウンによる体制作りを避けるため、職員の同意のもとに解決し、チームとしての組織作りに努めている。また、勤務に関する全般については、日常的に実行性を高めるため、気づきを促し、職員の意見をよく聞いて対応するように努めている。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	a
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	a	a
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	a

[自由記述欄]

14)京都芸術大学子ども芸術学科と連携し、積極的に保育実習生を受入れ、必要な人材確保に取組んでいる。学科内には園長が担当する講座もあり、学生との接点もあり、人材確保の面で有利に活用している。ただし、現在、職員の年齢構成で若手職員が少ないため、数年後の年齢構成を考慮し、子ども芸術学科からの保育人材の確保も含め、長期的な人員計画を検討している。

15)人事管理に関する規程として、給与、就業規則、昇給・昇格、労働時間など個別の規程として文書化しており、総合的な人事管理全体をカバーしている。現在、中途採用に対するルール作りを検討しており、園での課題に対応したルール作りに努めている。

16)職員の勤務に関する要望は主任が窓口になり、日常的に気軽に相談できるようにし、主任が調整している。職員は3月末に次年度の年休計画を提出し、実際のシフトは前月に確認したうえで決定している。日々の人員体制について一覧表で管理し、急きょ病欠などの際にも有効に活用している。リフレッシュ休暇の制度もあり、支障のないように話し合いをして調整している。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	a
		18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	a
		19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a
	II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	b

[自由記述欄]					
<p>17)目標管理制度を活用し、各職員のキャリアに応じた目標を設定し、さらにその目標に対して一人ひとりが具体的な目標を設定している。年度初め、中間、年度末の年3回の面談を個別に行い、それぞれの目標の設定内容、進捗、達成度を確認し、中間期では進捗確認と後半の改善などについて、年度末では自己評価も実施して、園長自らが個別面談し、相互に納得感が得られるように対応している。</p> <p>18)各職員の要望やキャリアに応じた研修が受けられるように研修計画を策定し、必要な研修を受けることができています。受講を促すため、研修内容の説明を加え、日常的に全職員に案内している。</p> <p>19)各職員の研修実績やキャリアに応じて、領域別の研修一覧を作成し、受講を促進している。保育時間内の受講もあるため、研修が優先されるような体制表を主任が調整し、職員の専門性の向上やスキルアップを図っている。研修の修了後は、必ず報告書を提出し、全職員が研修報告を行い、それぞれの研修成果を勉強会などで共有している。</p> <p>20)京都芸術大学こども芸術学科カリキュラムで、毎年「保育インターンシップ」「保育実習」に15名程度の実習生を受けている。実習時には、事前に必ずオリエンテーションを実施している。実習生の指導担当者を決めて対応しているが、指導者に対する研修はできておらず、職員の経験知のもとで対応しているのが現状である。実習指導者育成の取り組みが望まれる。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	a
		22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	a

[自由記述欄]					
<p>21)情報公開については、瓜生山学園のWebマガジン「瓜生通信：瓜生山でこどもが笑う」に、保育情報が細かく詳細に掲載され、保護者や関係者に発信している。公開に際しては、こども芸術大学だよりのQRコードでリンクしているため閲覧は限定的である。こども芸術大学のホームページの運営管理は法人一括で対応しており、情報量も多くなるため、現在、リニューアルを検討している。</p> <p>22)保育園を含め学校法人全体で監査を受けており、指摘を受けた場合は大学と連携しながら適切に改善している。経理業務については保育園の担当者が一次的な対応を行い、法人本部の経理課が経理規程に従って適正に経理処理を実施している。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-4 地域との交流、地域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	b
		24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	b
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	b
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	b	a
		27	② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	b

[自由記述欄]					
<p>23)コロナ禍の影響で外部との交流には多くの制約があり、地域との積極的な交流は殆ど出来ていないが、近隣の寺院の住職を招き、子どもたちと共に地域のお地藏様や、園庭の観音様に読経していただいたり、5歳児が就学前の小学校を見学しようと近隣の北白川小学校を訪問するという企画を実施している。</p> <p>24)京都芸術大学こども芸術学科の学生ボランティアを積極的に受入れているが、外部のボランティアは受け入れておらず、大学内の活動に留まっている。</p> <p>25)子どもたちが通園している療育センターと連携し、定期的ではないが、随時研修に参加し助言を受けている。また、消防署や警察署の講習会に参加し、不審者対応のアドバイス等を受けている。保健所、児童相談所、病院、学校等へは必要な場合のみの対応はしているが、体系的で定期的な取り組みには至っていない。</p> <p>26)年7回の子育て支援のための「瓜生山セミナー」を地域住民も対象に加えて開催し、地域の子育て家庭との交流や子育て支援のために、親子参加型の企画と保護者向けの子育てに関する講演会を充実化して積極的に開催し、保育所の機能還元を行っている。</p> <p>27)保育園にとって、瓜生山学園内での活動でほぼ完結し、敢えて、学園外の地域にフォーカスした活動まで展開してはいるが、学園を地域の一部と捉えたと、学園が主体となって取り組んでいる地域貢献や芸術祭や音楽会等の公益的事業に参画することで、保育園を知ってもらえる機会になる。学園外との連携という切り口での活動が難しい面もあるが、今後の課題としての取り組みが望まれる。</p>					

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	a
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	b	a
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	b	b

[自由記述欄]

28) 子どもを尊重した保育の実施について、パンフレット、ホームページ、「保育園のしおり」に明示し、全国保育士会の「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を用いて、基本的な人権への配慮等について、職員が自己点検する機会を設けている。

29) 「安全確保・危機管理マニュアル」を整備し、プライバシー保護や権利擁護について職員の理解を図っている。「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用し、不適切な事案に対する具体的な対応について研修を実施している。

30) 保育園の特徴や保育内容について、パンフレット、ホームページ等で視覚的に紹介している。特徴である「地域の道に面さず、瓜生山の斜面に立地」、「京都芸術大学の中に設置」という環境について理解を促すため、保育園の見学においてプレゼンテーションを実施している。

31) 入園説明会において、「保育園のしおり」、「重要事項説明書」を用いて、園長が詳細まで丁寧に説明している。保育の変更時には、保護者の意向に配慮し同意を得て契約している。

32) 保育園の利用終了後も、相談できる環境であることを子どもや保護者に伝え、「卒園生の集い」を6月に行っている。保育の継続性に配慮し、転園時の申し送りはメールで行い必要事項を伝えているが、手順書や引継ぎ文書は整備されていなかった。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	a
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	a
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	a

[自由記述欄]

33) 要望・苦情等の相談窓口は、「保育園のしおり」、「重要事項説明書」に明記し、玄関にも掲示している。以前、法人内の第三者委員への申し立てがあった事案について、保護者全員に協議経緯や対応について公表を行った。園庭である瓜生山で園外保育を積極的に行っているが、怪我についての苦情はほとんどない。

34) 保護者が相談や意見を述べやすいように、日頃から担任、主任をはじめ職員全員が保護者との送迎時の対話を心掛けている。また、玄関前に位置するガラス張りの園長室の扉は常に開放し、園長にも保護者が気軽に話せるように配慮している。

35) 保護者からの相談や意見は、すぐに主任・園長に報告され、連絡会議等で職員全員が共有し検討して迅速に対応している。また、毎年2月に保護者アンケートを実施し、結果を公表して、保護者の意見等を積極的に把握し、保育の質の向上につなげている。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	a
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b	b
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	a
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a	a

[自由記述欄]

36) リスクマネジメントに関しては、「安全確保・危機管理マニュアル」を作成し、事故発生時の対応手順等を明確にしている。また、ヒヤリハット・事故報告書を作成し、連絡会議・職員会議等で職員全員に情報共有し、再発防止に向けて改善策を検討・実施している。

37) 感染症予防・対応のためのマニュアルを整備し、職員に周知を図っている。各保育室に嘔吐対応用バケツ・消毒液等のセットを準備し、イラスト付きの説明資料も作成している。職員への伝達研修はしているが、定期的な実践研修が実施されていなかった。

38) 「安全確保・危機管理マニュアル：災害編」を作成し、災害時の対応体制を定めている。火災や地震等、様々な災害状況を想定した避難訓練を毎月実施し、保育園の立地条件から土砂崩れを想定した訓練も消防署と連携して毎年実施している。保育園で備蓄を整備しリストも作成し、賞味期限等の管理をしている。

39) 「安全確保・危機管理マニュアル：不審者対応編」を作成している。玄関はオートロックを採用、園内には7台の防犯カメラを設置し、非常ボタンを事務室とホールに設置している。不審者侵入時の対応方法について、下鴨警察署員の指導の下、実践的な園内研修を実施している。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 福祉サービスの質 の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な 実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	b	a
		41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a
	Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉 サービス実施計画が策定されてい る。	42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	b	a
		43	② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a	a
	Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に 行われている。	44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	a
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	b

[自由記述欄]

40) 保育について標準的な実施方法として、保育業務の実施方法の手順を勤務体系ごとに文書で明示し、確認用チェックリストで点検している。全体的な計画に基づいた月案・週案を策定し、一人ひとりの特性に配慮した保育が実践されている。

41) 標準的な実施方法の見直しについては、毎月1歳児会議、2歳児会議、幼児会議や職員会議で検討・見直しを行っている。また、行事後や年度末の保護者アンケートから、保護者の意見や提案を保育内容に反映させている。

42) アセスメントに基づく指導計画については、保育開始前後の保護者面談や個人懇談会等で子どもや家庭の生活状況や保育ニーズを把握し、月案や週案等の指導計画を策定している。個別に配慮が必要な際は、療育センター等の専門機関と連携して事業計画に反映している。

43) 定期的な計画の評価・見直しについては、週案に前週の様子と今週のねらいが明記され、日常的に見直しされている。また、月案・週案は乳児会議、幼児会議で共有され、体系的な会議で定期的に評価・見直しを行い、改善点を指導計画に反映している。

44) 保育の記録については、1～2歳児は日々の記録を記載し、週末には今週の振り返りも記載している。3～5歳児は週の記録を記載している。個別の指導計画等に基づく保育が実施されているか、園長・主任は全ての記録を確認している。「記録の書き方」について、園内研修を実施している。

45) 個人情報保護について規程に基づき記録の管理を行い、保護者に個人情報の取扱いについて説明し同意を得ている。保育園設立5年目で、現在は子どもに関する記録は全て保管している。電子データを含め、記録の保管・保存・廃棄・情報の提供に関する規程が文書化されていなかった。

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(1) 全体的な計画の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を編成している。	a	a
		47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	a
	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	a
		49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
		50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	a

[自由記述欄]

46) 保育園の理念や保育方針に基づいた保育の全体計画を職員の年間計画、月案、週案、日案などの意見も反映させて策定し、年度初めの職員会議で重点目標について職員に周知している。また、この全体計画は事務室や休憩室にいつでも確認できるように掲示している。

47) 木の素材の良さを生かした園舎に、子どもたちの作品が飾られ、衛生的な施設環境を実現している。子どもの成長に応じた生活面や安全面の配慮が細部にわたり行き届いている。

48) 子どもたち自身がやりたいと思うことを基本に、保育計画を立てている。子どもたち一人ひとりの気づきを大事にし、個々の発達や特性に応じた保育を実践している。職員は子どもたちとの信頼関係を築きながら、連鎖的な発想を促し、次の遊びへの展開へとつなげている。瓜生山の豊かな自然環境が子どもたちの気づきに大いに役立てられている。

49) 子どもたち一人ひとりの発達レベルや気持ちに合わせて、排泄やおはしの持ち方などの生活自立を促し、無理な行動を押し付けていない。それを意図した保育と環境を設定し、例えば「トイレで椅子に腰かけて着替える」「靴の履き替えで、小さな台を置いている」など、子どもたちが主体的に基本的な生活習慣が身につくように工夫している。また、配慮の必要な子どもで言葉がわかりにくい場合、視覚的に絵やイラストで伝えており、効果をj確認している。

50) 子どもたちは、瓜生山や畑等の自然環境では、一人ひとりの興味や関心を大事にし、室内では様々なコーナー遊びで好きな遊びを見つけ、クラス間の壁なく自由遊びを楽しんでいる。子どもたち一人ひとりの考えていることを大事にして、子どもたちなりに自身の納得感を持てるように配慮した保育を実践している。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	51	⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	—	—
		52	⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	a

[自由記述欄]

51) 非該当
 52) 1歳児では、よりきめ細やかな保育のために保育士の担当を明確に分けずに、緩やかな担当制を取り入れ、保育士同士が互いに協力して助け合いながら保育を実践している。また、1歳児・2歳児は個別の指導計画を作成し、日々の子どもの様子や周囲との関わり等の個人別の記録を作成している。
 53) 一斉保育とは違い、強いて何かをさせるということはせずに、子どもたちが主体的に興味、関心をもつことを大切に、友だちとの関わりを通して、相互の関係性に気づきを促すように意図した保育を実践している。
 54) 障害があったり、配慮が必要な子どもに対し、個別の指導計画を作成し、「支援シート」で情報を共有している。子ども本人のペースを大事にしながら、フリーの保育士の協力も得て、その子どもに合わせた保育内容を実践している。また、定期的な巡回指導で受けたアドバイスは保護者にも伝え、保育の実践につなげている。
 55) 早朝と夕方以降は異年齢で過ごす合同保育の時間があり、特に安全面に配慮している。また、夕方の保育では、部屋の照明を弱め、落ち着いた雰囲気にして穏やかな気持ちになるような環境にしている。
 56) 保護者が子どもの就学に対して不安がある場合、担任と共に個別面談を実施している。また、支援が必要な子どもに関しては個別に小学校と連絡を取り、子どもの情報等を共有している。「保育所児童保育要録」を作成し、園長の確認後小学校に送付し、支援シートを提出した子どもについては、その情報を小学校と共有している。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	a
		58	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a
		59	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	a
	A-1-(4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
		61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a

[自由記述欄]

57) 子どもたちの健康管理に関するマニュアルを作成し、小児科医師による定期的な健康診断、耳鼻科、歯科健診、検尿、カウプ指数（BMI）判定を実施している。子どもたちの体調悪化やケガなどは保護者に必ず伝え、事後の確認を行い、一人ひとりの子どもに対する健康状態に関する記録を残して管理している。
 58) 小児科医師による定期的な健康診断、耳鼻科健診、歯科健診、検尿検査を実施し、結果は記録され周知されている。健康診断の結果については速やかに保護者に伝え、保育に反映している。
 59) アレルギー疾患のある子どもの保育は医師、保護者と連携し、給食に関しては、毎月、保護者、栄養士、園長、担任が同席し、食物アレルギーの視点で、献立表の詳細から使用する食材を細かく確認して、部分除去などの対応をしている。
 60) 子どもたちは、自分のランチョンマットを作製したり、誕生会のお誕生日の子どもに星形の野菜を入れたりなど、楽しく食事ができるように様々な発想の工夫をしている。保育園で子どもたちが栽培した野菜を自ら収穫して、給食で食べることなど、食育に関わる取り組みにも工夫している。
 61) 給食会議を月1回開催し、子どもの喫食状況や献立、調理の方法等を工夫している。管理栄養士の方針のもと、多くの野菜摂取や食育の考えを盛り込んでいる。和食中心で地産地消の旬の季節の食材で手作りし、魚は骨をあえて除去せずに取り方を教えて提供している。職員も同じ給食を摂り、栄養士が食事の様子を見学し、子どもたちの話を聞き取る機会も設けている。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	a
	A-2-(2) 保護者の支援	63	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	a
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	a

[自由記述欄]

62) 職員は、保護者と日常的に家庭や保育園での子どもの様子を伝達し合える関係性を構築し、登降園の時などには積極的に保護者に話しかけている。重要な事項はノート等で情報共有しており、職員間にも周知している。年間で開催される懇談会や参観日など保護者参加行事等により、保護者とのつながりを展開している。

63) 日ごろ、保護者とのコミュニケーションをとりながら、保護者から相談事がある時は丁寧に対応し、信頼関係が構築できている。相談については記録に残し、職員間で共有し、必要な場合は関係機関につないでいる。

64) 虐待の早期発見のために、日常的に意識して基本知識の研修を実施している。毎朝の視診で子どもの様子を確認し、傷などがあつた場合には原因を確認し、子どもの様子や送迎時の保護者の様子も意識して状況確認している。

65) 保育士それぞれが保育実践の自己評価を行い、次週案等の保育計画に反映し、課題と対策を常に顧みながら保育を実践している。メモノートには個々の子どもの様子を記録し、場合によっては他の職員や上司に相談したりアドバイスも受けている。